

駒林小学校でせんきょフォーラムを実施しました！

6月27日（火）に駒林小学校で6年生80人が参加し、模擬投票を実施しました。選挙のテーマは「運動会のソーラン節で着る法被（はっぴ）。」

演説では先生方が、レモンのような爽やかな「黄色」、空のようなクールな「青色」、情熱の「赤色」、それぞれ色の法被をアピールしました。

全員が投票した後、一部の児童によって開票が行われ、その結果、情熱の「赤」がトップになり、運動会本番ではみんなで赤い法被を着ることに決めました。アンケートでは、ほぼ全員が、自分の投票で意見が決まることを実感し、「18歳になったら必ず選挙に行く」と答えてくれました。



記載台で投票用紙に記入

児童からの主な質問

Q. 得票が同じ数だった場合、当選をどのように決めるのですか？

A. くじで決めます。

Q. 選挙が終わったら、投票用紙はどのように処分するのですか？

A. 投票用紙は、通常の紙ではなく、プラスチックを原料とした素材で作られていて、一定期間保存した後、園芸資材などプラスチック製品にリサイクルしています。



インターンシップで大学生が選挙管理委員会を職場訪問しました！

8月8日から8月10日の3日間、インターンシップ実習生として4人の大学生が選挙管理委員会での仕事を体験しました。投票所の設営や立候補の体験、今回のイコット通信の編集にも携わったほか、職員との座談会では、若い世代の政治意識について意見交換しました。



投票所設営体験



（インターンシップの感想）

・選挙をするためには、多くの人の協力と準備が必要であることを知り、改めて自分の持つ一票の価値を再認識することができました。

（座談会での学生の声）

・同じ世代の若者が投票に行っていないことを、どう思っていますか？

自分は投票に行っていますが、周りを見ると、今の生活に十分満足している人が多く、選挙で世の中を変えたいと思う人が、それほどいないような気がします。

・若い世代の投票率を上げるには、どうしたらよいと思いますか？

被選挙権の年齢を下げることも有効だと思います。若い人たちの目線で政策を訴える候補者が増えてくれば、もっと自分事として政治や選挙に関心を持てるようになると思います。